



令和4年4月28日

かみせや

横浜市立上瀬谷小学校 学校だより

5月号

上瀬谷小学校教育目標

学び合う子

認め合う子

鍛え合う子

わかることは、かわること

校長 小林 京子

新学期がスタートし、各教室では、新しい仲間たちとの学びが始まっています。私も、教室を回りながら、子どもたちの生き生きとした学習の様子が見られることを嬉しく感じています。

高学年のクラスで、著名な人の言葉を調べ「自分の座右の銘」を見つける活動をしていました。ある子が調べている言葉を覗くと、言葉の横に作者が書いてあったので、「この人は、どんな人なの？」と小声で尋ねると、「よくわからない。」とのことでした。次の日、その子は、廊下にいる私を見つけて、「先生、私、家に帰ってから自学※で、調べたんです。」と言いに来てくれました。「それは、素晴らしいね。どんな人なの？」と聞くと「太陽の塔を作った人。日本の代表的な芸術家です。」と。この子は、自分の座右の銘の作者について知ること、一層その言葉を大事にできることなのでしょう。また、中学年のクラスでは、国語の教科書の新しい教材を一読し終わったところでした。先生が「わからない言葉はありませんでしたか。」と尋ねたら、子どもたちは、「ありません。大丈夫です。」と答えました。先生が、「では、えりすぐりの木の『えりすぐり』ってどんな意味なのかな。」と尋ねると、「それは木の名前だよ」「えりすぐりっていう木」「だれかの木」など、子どもたちは、知っているよ、と言わんばかりに自信に満ちた雰囲気です。子どもたちは、その学習の最後に、担任といっしょに国語辞典で意味を調べて、全く違う意味であることを知ったのでした。また、図書室を通りかかると、司書からこんな報告も受けました。「花壇を見ていた女の子二人が、名前の知らない花があったから図鑑で調べてみたい、と図書室をたずねてきたんです。調べようとするって大事ですね。」

いずれの話も、新学期スタート間もないできごとですが、わからないことをそのままにせず、「わかった」に変えたエピソードです。どんな小さなことでも、本当に「わかった」ときには、わからなかった時とは違う自分になっているのです。つまり、わかることは、かわる(変わる)ことと言えるでしょう。

本校では、今年度「自らの学びを見つめ、調整していこうとする子を育てる」という研究主題で、本校の子どもたちの資質能力の育成に取り組もうとしています。わからないことが自分でわかり、それを調べて追究できるような学び方を学校の中でたくさん経験させていきたいと思います。タブレットの活用はもちろんのこと、図鑑や辞書、そして、豊かな地域の方々(人財)を頼りに、そして何より諸感覚を生かした体験を通して、たくさんの「わかった!」を子どもたちから聞きたいと思います。

4月14日には、約10か月ぶりに子どもたちの姿を保護者の皆様に見ていただくことができました。保護者の皆様にも、感染症予防のため、入校1名、検温、消毒等のご協力をいただきながらの開催ではありましたが、授業を見てもらい、子どもたちは、とても励みになったことと思います。

さて、大型連休に入ります。慣れない環境での1か月に子どもたちも見えない疲れがあると思いますので、ゆっくり心身を休めてください。と同時に、感染症に関しては、予断の許さない状況が続いていますので、どうか引き続きの予防のご協力をお願いいたします。※「自学」: 家庭での自主学習ノート